



# 大津・SDGs協働支援 チャリティプロジェクト2021



## 報告書

# ご挨拶

## 大津市長 佐藤 健司

この度、前年度に引き続き、市民、行政、企業、大学の四者協働による「大津・SDGs協働支援チャリティプロジェクト2021」において、SDGsの基本理念や本市における協働のまちづくりの推進に取り組まれたことに対し、関係各位のご尽力に感謝申し上げます。

本市では、令和3年度から大津市総合計画第2期実行計画をもとに「夢があふれるまち大津」の実現に向けて様々な取り組みを行っております。

今なお、新型コロナウイルス感染症の影響により地域の活動が制約を受けている中、市民が主役のまちづくりを推進していくため、市民活動センターの果たす役割は大きいと考えております。今後も皆様方の創意工夫でまちづくりの取組みを発展させていただきますようお願いいたします。

今回のチャリティプロジェクトに参加された皆様におかれましても、新たな出会いや気付きを今後の活動に活かしていただくとともに、皆様方の活動が、SDGsの基本理念である「誰一人取り残さない」社会の実現や本市の協働のまちづくりの進展につながることを期待しております。



## 大津市市民部長 小島 浩幸

本市では、誰もが主体的にまちづくりに参加し、将来にわたり、助け合い支え合う、協働のまちづくりを推進しています。しかしながら、地域の現場では、まちづくりの担い手不足や固定化が課題となっています。

「大津・SDGs協働支援チャリティプロジェクト2021」では昨年度に引き続き「子ども・若者支援の取り組み」に着目されました。子どもや若者は地域の財産であり、将来の地域活動の担い手です。本市では、令和4年度から高校生を対象とした「次世代まちづくり事業」の実施を予定しています。次世代の担い手の裾野を広げるため、高校生による主体的なまちづくりの提案を事業化し、実践する機会を創ることで、まちづくりの当事者としての意識の醸成と地域の方々とつながる場を創出していきます。

この度の「大津・SDGs協働支援チャリティプロジェクト2021」では、多くの市民団体、事業者及び大学の参加・協賛の下、様々な取組みを実施されたことは、本市の目指す協働のまちづくりにつながるものと考えています。

今後も様々な主体が互いの立場や考え方の違いを尊重し合い、効果的で持続的なまちづくりが展開されることをご祈念申し上げます。

# 2021年度のプロジェクトの成果

## <四者協働の推進>

多くの市民公益活動団体、企業、大学、大津市、滋賀県または各種メディア等からご協賛やご協力頂き四者協働により事業を展開しました。

## <SDGSsに対する啓発・人材育成・交流活動の推進>

SDGsの推進に向け、「目標1. 貧困をなくそう」を具体的なテーマとして、「啓発・普及活動」「人材育成活動」「交流活動」に取り組みました。新型コロナウイルス感染防止に十分配慮しながらイベントやフォーラムを開催し、多くの市民の参加と好評をいただきました。

## <コミュニティファンドと寄付支援・資源提供の体制づくり>

大津で子ども・若者支援に取り組む5団体を支援先として選定し、チャリティ事業と人材や体験プログラムのマッチングなどの支援を行いました。チャリティ事業では、各団体に9万7千円を寄付することができました。



# 1.プロジェクトの目的と概要

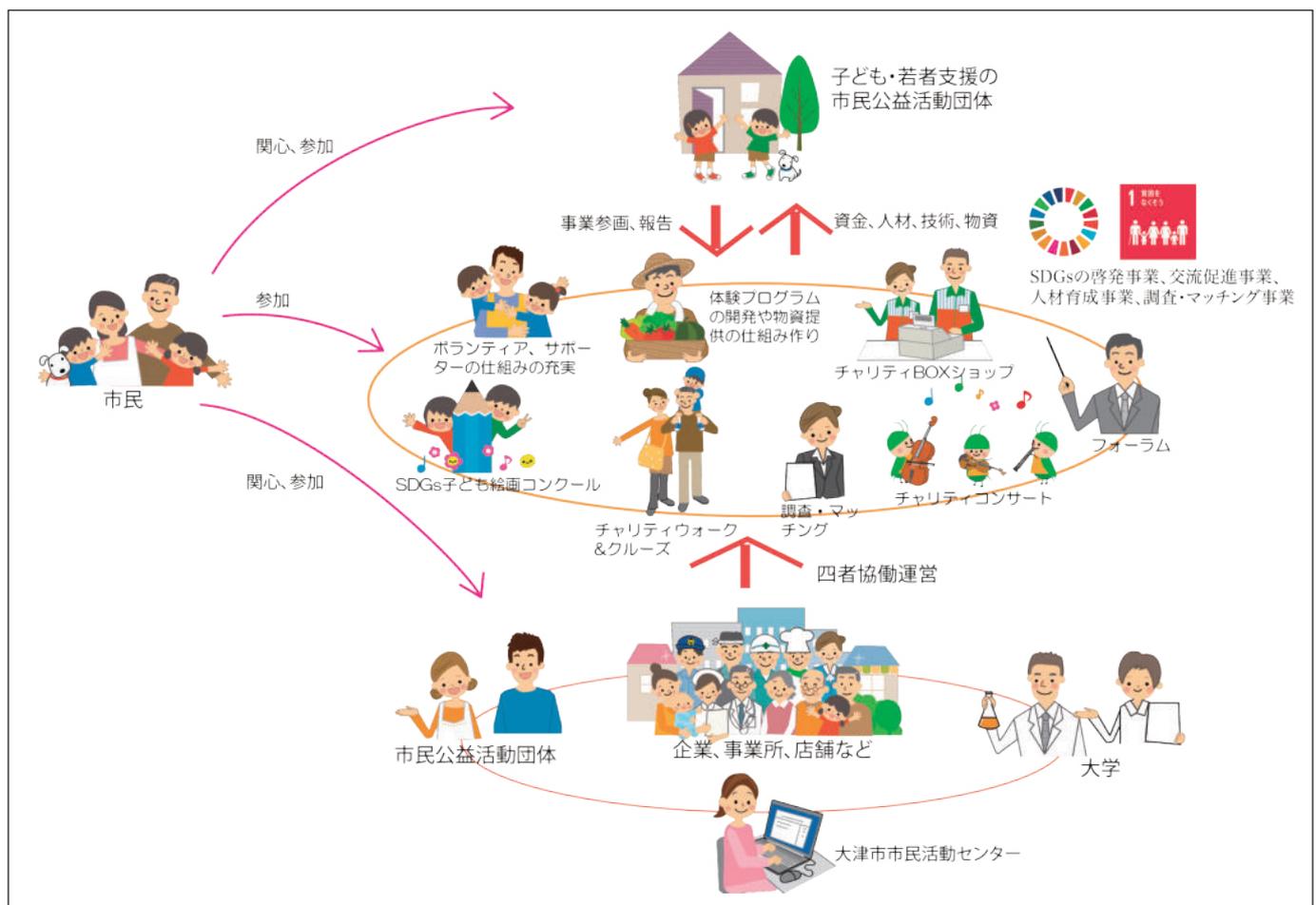
## 1-1. 大津・SDGsプロジェクトの背景

大津市では、2011年に施行した『大津市「結の湖都」協働のまちづくり推進条例』に基づき、三者協働によるまちづくりを推進しています。大津市市民活動センターは、市民公益活動の推進により地域社会に貢献することを目的とした公共施設です。近年、地域社会が抱える課題はますます増大し、市民公益活動団体はもとより、様々なセクターの協働が求められています。

2015年9月、国連に加盟する193か国が2016年から2030年の15年間で達成するためにSDGs（持続可能な開発目標）を採択しました。SDGsは17の目標と169のターゲットで構成されます。これらの目標やターゲットは、市民公益活動と深く関わり、非営利特定活動促進法に記された20の分野ともよく合致します。

当センターでは、2018年度から、SDGsをテーマとして、市民、行政、企業、大学の四者協働による地域貢献に取り組んできました。2018年度は事業の初年度として、フォーラムやフェスタなどSDGsの啓発に力を注ぎました。

2019年度からは「協働支援型寄付事業」として、各年度でテーマを設けて公募採択した市民公益活動に対して、四者協働によりチャリティ事業を展開して寄付を行ってきました。2020年度からはチャリティに加え、人材や体験プログラムなど資源のマッチング事業を開始しました。これらはそれぞれの団体や個人の得意分野を活かしながら具体的かつ継続的な社会貢献を進めるものです。



市民、行政、企業、大学の四者協働によるチャリティやマッチング事業の仕組み

## 2.2021年度の取り組み

### 2-1. 大津の「子ども・若者支援の取り組み」への支援

2021年度は2020年度から引き続き、「子ども・若者支援の取り組み」に対して、チャリティ事業および資源のマッチング事業に取り組みました。

SDGs、市民公益活動のテーマが多岐に及ぶ中で、支援事業のテーマを昨年度に引き続き「子ども・若者」としたのは、昨年からの新型コロナウイルス感染拡大により、子供や若者の置かれる状況が深刻さを増していることからです。SDGsの目標年の2030年に大人になって社会で活躍すべき子どもや若者を、異分野異業種を超えて支援し、より住みやすい大津を実現できるような仕組みを目指しました。

2021年6月に支援先団体を公募し、7月に審査会を開催した結果「NPO法人CASN」「一般社団法人異才ネットワーク」「NPO法人こどもソーシャルワークセンター」「NPO法人寺子屋共育轍」「日和-寺子屋大津-」の5団体の事業が採択されました。



支援先団体の審査会

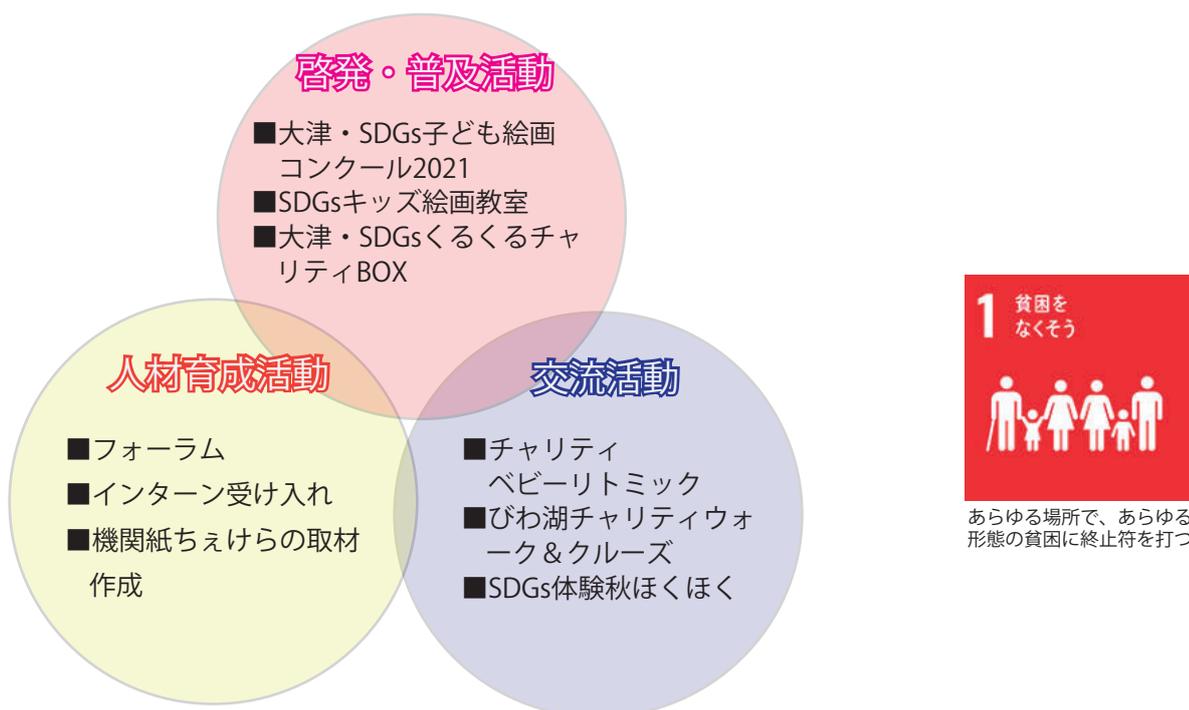
### 2-2. SDGsの推進：貧困をなくそう

SDGsの推進では、毎年「啓発・普及活動」「人材育成活動」「交流活動」の3つで事業を構成しています（左下図）。初年度の2018年度は「SDGsとは何か」について、子どもから大人まで、フェスタや講座などの事業を通して広く啓発する活動に重点を置きました。

2019年度からは17の目標からテーマを選び、各年度の目標について講座やフォーラムを開催して理解を深めることに努めました。2019年度は、「12. つくる責任、つかう責任」として、フードロスや資源の循環など幅広く取り上げた事業を行いました。

2020年度は「子ども・若者支援」に関連の深い、「10. 人や国の不平等をなくそう」「11. 住み続けられるまちづくりを」をテーマにしました。

2021年度は「1. 貧困をなくそう」をテーマとし、四者協働の拡充に取り組みました。



# 3.事業成果・「子ども・若者支援の取り組み」への支援

## 3-1. チャリティが目標金額に達しました

新型コロナウイルス感染拡大によりイベント中止などチャリティ事業も難しい状況でしたが、多くの市民や協賛企業・団体、大学ができることを持ち寄り運営しました。その結果、2022年2月時点で目標金額の2倍の420,000円が集まりました。この寄付金は2022年度に下記の事業で活用されます。

### ①「NPO法人CASN」 18歳までの子ども専用電話しがチャイルドライン

子どもたちを、社会を担うパートナーとしてとらえ、子どもの声に耳を傾けながら、電話をかけてくる子どもの心に向き合い、いま私たち大人に出来ることは何なのかを社会に向けて発信することで、子どもたちの環境を整えていきます。



### ②「一般社団法人異才ネットワーク」 不登校の子どものための第三の居場所づくり事業

不登校児童生徒に対し、安心安全な日中の居場所を提供し、好きなことや興味あることを中心に学びを深めていきます。学校との不協和感により不登校となった児童生徒が当会の居場所で、生きるために必要な学びを得ることで、自己肯定感を取り戻し、健康に育ち、社会的に自立していきます。就労・就学に繋げることで貧困化を防ぎ、将来のひきこもりやニートにならないようにサポートします。



### ③「NPO法人子どもソーシャルワークセンター」 高校内居場所カフェに繋がる輪づくり事業

定時制の高校と共同で行う、高校の居場所カフェ事業は今年で4年目になります。その中でもフードバンク(食材支援)の需要が多くなっています。本事業では、人的資源のマッチングや、ボランティア募集サイトの活用をしながら地域住民を今よりもっと巻き込んでフードバンクの充実を図ります。

また、卒業生をスタッフとして雇用し、在学生と先生たちとのつなぎ役として成果を上げ、繋がりを強化することを目的とします。



#### ④「NPO法人寺子屋共育轍（わだち）」 にこはうす(セクシャルマイノリティの子どもたちの ための居場所づくり)事業

表面には見えないジェンダーの悩みを抱える子どもたちの居場所を作り、その子どもたちにとって安心できる場を提供します。それと同時に、若者向けにジェンダーについての勉強会を行い、受け入れられる体制を作ります。



#### ⑤「日和寺子屋大津」 外国にルーツをもつ子どもたちの学習支援事業

外国にルーツをもつ子どもたちは日本語能力により学校生活に不自由を感じることがあります。私たちは第一に彼らに寄り添い、自己実現のサポートをすることを目的としています。さらに、外国にルーツをもつ人々が年々増加するなか、共生社会を構築することは焦眉の課題でもあります。私たちは子どもたちに学習支援・異文化交流を通して、地道ながらも多文化共生空間を築き、その在り方について絶えず考えていきます。



### 3-2. 資源のマッチングに取り組みました

本事業では公募の段階から各団体への聞き取りや、個人や団体との打ち合わせをできるだけ丁寧に進めました。コロナウイルス感染拡大により予定を変更せざるを得ない部分もありましたが、人的資源の提供や体験プログラムの受け入れを行いました。

#### 協賛企業とのマッチング 外国にルーツをもつ子どもたちのお抹茶体験

12月に社会見学の一環としてお茶席の体験をさせて頂きました。弊団体で勉強する外国にルーツがある子どもたちにとって、改めて日本文化を学ぶ大変良い機会となりました。

お茶席では、子どもたちにもわかりやすい言葉でお作法や道具についてご説明頂きながら、お抹茶と生菓子を頂きました。お抹茶は苦みのある大人の味でしたが、子どもたちはとても美味しかったようです。

また、敷地内は美しい紅葉や果樹であふれ、子どもたちは写真撮影をしたり、ご案内くださった方に植物について質問したりして楽しみました。

この日は弊団体にとって初の試みである大人数での外出で、子どもたちは終始大喜びでした。また、企業様には参加者の文化的背景に各種のご配慮を賜りました。ご尽力くださった皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。

日和寺子屋大津



## 4. 事業成果・SDGsの推進

### 4-1. SDGsを伝える・啓発活動

#### ①大津・SDGs子ども・絵画コンクール2021 (表彰式11/27 スカイプラザ浜大津 43作品応募 入選6名、受賞者10名)

今年度のSDGsの取り組みのテーマである「1. 貧困をなくそう」を題材とした作品を、大津市内の小学校3年生から中学生を対象に募集しました。43点の応募作品より大賞（市長賞）1点と協賛企業9社からの特別賞を選定し、11月27日の表彰式で賞状と副賞を授与しました。また全ての応募作品は弊所やイオンスタイル大津京、滋賀銀行で展示しました。



スカイプラザ浜大津にて絵画授賞式の様子

#### ②SDGsキッズ絵画教室 (7/31・8/1, 22 大津市民活動センター 参加者48名)

教室に参加した子ども達はクイズ形式でSDGsについて学んだ後、水彩画の先生に表現技法を学びながら、SDGsをテーマに絵を描きました。



自由な発想で筆以外でも楽しくお絵描き

#### ③大津・SDGsくるくるチャリティBOX (昨年度から継続 協賛企業等計7店舗に設置 今年度新規1店舗)

市民公益活動団体が生産したお菓子・農産物・文具・小物等を企業や団体のオフィスなどで社員向けに頒布し、価格の10%を寄付しました。

#### SDGs子ども絵画コンクール2021大賞作品 「大きなスイカを世界中のみんなでたべよう」



<受賞した子どもからのメッセージ>  
大好きなスイカ。世界中のお腹が空いている人々と分けあって一緒に食べよう。きつととっても美味しいよ。



事業所などに提供している、くるくるチャリティBOX

## 4-2. SDGsを育む・人材育成活動

### ①2030年に大人になる子どもや若者とともにin大津 (11/27 スカイプラザ浜大津 参加者79名)

元文部科学事務次官、前川喜平氏を特別講師に招聘し、基調講演をいただいた上で、支援先の5団体、大津市社会福祉協議会よりパネラーを迎えたフォーラムを開催しました。



フォーラムの前川氏基調講演

### ②「子ども・若者」の現状や団体の取り組みについての情報発信

本事業のサポーターが、支援先である子ども若者支援団体が主催する、学習が困難な外国籍の方の為の学習会に参加したり、取材し、記事にして、当センターの機関紙「ちえけら」で情報発信しました。

### ③インターンの学生によるSDGs講座

チャリティイベントの「びわ湖チャリティウォーク&クルーズ」「秋ほくほく」では、滋賀短期大学の学生が、市民や子どもがSDGsについて学ぶプログラムを提供しました。クイズ形式で、学生ならではの視点が活かされたプログラムは子どもや親子連れに好評でした。



フォーラムで7人のパネラーによるディスカッション

## 参加者の声

### 2030年に大人になる子どもや若者ととともにin大津

- ・知らないだけで子どもたちのことを真剣に考え、活動している団体がたくさんあるのだとおもいました。今後も応援しています。
- ・歯切れの良い前川氏の講演良かったです。内容は全く共感しました。
- ・前川氏の生でお話を聞く機会をいただきとてもありがたいです。学びを深めたいと思います。集まられた方々と同じ話を共有出来て心強いです。



2〜3団体ずつ紹介している機関紙「ちえけら」

### 4-3. SDGsをすすめる・交流活動

#### ①音楽絵本でリトミック

(8/1スカイプラザ浜大津 参加者59名

3/25大津市市民活動センター 参加者11名)

大津リトミックグループ協力のもと、ピアノの音に合わせて会場を動き回ったり、プロジェクターで絵本を大画面に写した絵本の読み聞かせを楽しみました。



ママもパパも参加、みんなで楽しくリトミック

#### ②びわ湖チャリティウォーク&クルーズ

(11/13JR大津駅から大津港～琵琶湖クルーズ

参加者200名)

親子や家族づれを中心に、JR大津駅を出発し、SDGsに関するクイズに答えながら大津港まで歩き、ミシガンクルーズを楽しみました。琵琶湖汽船株式会社のご支援、多くの企業から景品などをご提供いただき、また市民公益活動団体や大学にも協力をいただきました。



びわ湖チャリティウォーク&クルーズでミシガンクルーズ

#### ③SDGs体験 秋ほくほく

(11/13大津市市民活動センター

6教室 参加者94名)

市民公益活動団体や事業所の協力により、ダンボールプレイパーク、こども体操教室、木工教室、水彩画教室、琉球祭り太鼓の太鼓体験、絵本の読み聞かせの体験プログラムを開催しました。学生による子供向けSDGsクイズも大好評でした。

#### 参加者の声

##### びわ湖チャリティウォーク&クルーズ

- ・いい季節に家族との楽しい思い出ができました。
- ・気楽に楽しめて、子どもも大喜びでとても良かったです。

##### SDGs体験 秋ほくほく

- ・来年も開催してほしい。



木工教室、クリスマスツリー作成の様子(右上)  
琉球祭り太鼓体験教室の様子(左下)

# 5. 事後評価アンケート

## 5-1. アンケートの実施と回答

本事業に参加・協賛した市民公益活動団体・企業・行政を対象に事後評価アンケートを実施しました。市民公益活動団体からは13、企業からは16、大学からは1団体より回答を得ました。

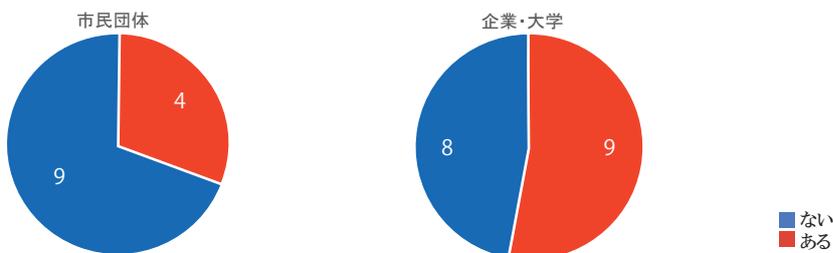
## 5-2. 地域貢献やSDGsへの取り組み状況

### ①SDGsへの取り組み状況

本調査に参加した市民公益活動団体、企業、大学に、本事業（大津・SDGs協働支援チャリティプロジェクト2021）以外にSDGsをテーマとした事業を実施したか設問しました。その結果、市民公益活動団体では、「ある」は4団体、「ない」が9団体、企業や大学では「ある」が9団体、「ない」が8団体という結果になりました。

市民公益活動団体については、既存の活動が既にSDGsとの関わりが深く、SDGsを改めてテーマとしてはいない可能性もあります。

#### 【本事業以外にSDGsをテーマにした事業の実施の有無】



### ②市民公益活動団体の活動状況

#### 【20, 21年度コロナウイルス感染拡大による活動について】

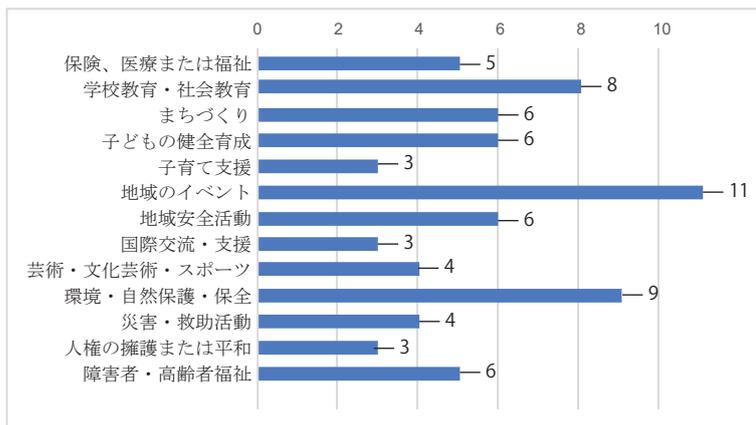
市民公益活動団体に新型コロナウイルス感染拡大による影響について設問したところ、「活動を休止・中止した」「活動が縮小した」などの意見が寄せられました。

- 活動を休止・中止した(5件)
  - ・練習場所の閉鎖、イベントの中止等。練習についてはオンラインで対応。
  - ・体育館などがワクチン接種会場で使えなく中止となった。
- 活動が縮小した(3件)
  - ・高齢者とコロナ感染は直結するものであり、活動事業が大幅に縮小している。
  - ・中止・延期が多く時間も短縮した。小学校ではzoomでお話会をした。
- コロナ対策に配慮して運営した(2件)
  - ・3密対策をとりながら、少人数での教室の開催(2件)
- 昨年度より活動の幅が広がった(1件)
  - ・2021年10月よりイベントが入り、多忙となる。

### ③企業の事業分野、SDGsや地域貢献等への取り組み

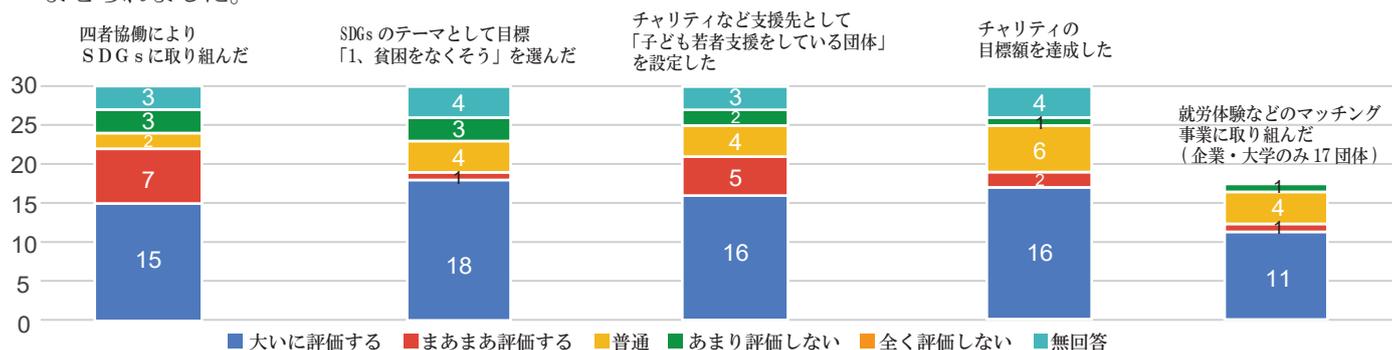
企業及び大学に対して、これまでに取り組まれたCSRや地域貢献活動、SDGsの分野について複数回答で尋ねたところ、「地域のイベント（11団体）」「環境・自然保護・保全（9団体）」「学校教育・社会教育（8団体）」の順となりました。一方「子育て支援」「国際交流・支援」「人権の擁護または平和」はそれぞれ3団体と少ない結果となりました。

【これまでに取り組まれたCSRや地域貢献活動、SDGsの分野（複数回答可）】



### 5-3. 「大津・SDGs協働支援チャリティプロジェクト2021」への評価

回答した市民公益活動団体、企業、大学の50%以上がすべての項目について「大いに評価する」と評価しました。特に「四者協働によりSDGsに取り組んだ」「チャリティなど支援先として「子ども若者支援をしている団体」を設定した」については70%以上が「大いに評価する」「まあまあ評価する」と回答しました。支援先に関しては「子供たちのおかれた家庭事情・社会状況、経済格差が大きすぎて目をつむってられない」「四者協働で進める事業の仕組みづくりがすばらしいことだと感じました」といった意見が寄せられました。



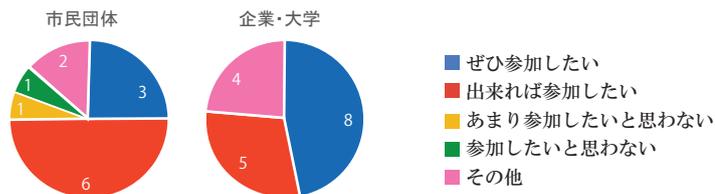
- 「子ども・若者」支援を対象にした
  - ・子ども達のおかれた家庭事情・社会状況、経済格差が大きすぎて目をつむってられない。
  - ・コロナ禍も続き、運営が難しいことも多いかと存じますが、中でも孤立される恐れがある皆様に焦点を当てた活動については素晴らしく感じております。学生団体などのお力もとても関心させられましたので、お互いに良い経験や実績になれば幸いです。
- 寄付以外のマッチングがあった
  - ・子供を対象とした体験プログラム（現場見学会）の提案をしていたが、コロナ禍により実施に至らなかった。感染リスクが減少した際は是非実施をしたい。
- 四者協働で進めた
  - ・四者協働で進める事業の仕組み作りがすばらしいことだと感じました。チャリティで市民が楽しく参加しながら支援できることが良いと思いました。

## 5-4. 今後の四者(市民、行政、企業、大学)協働の方向性

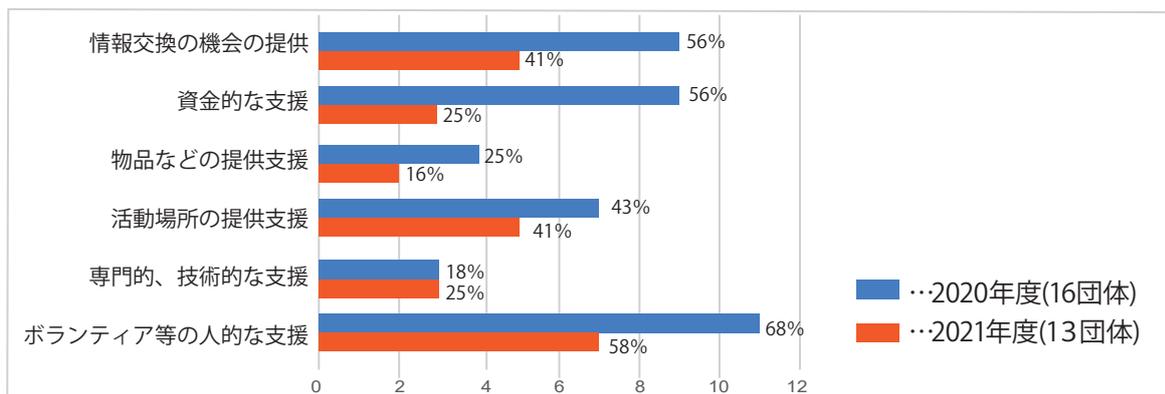
回答した市民公益活動団体、企業・大学では、本事業への継続的な参加の意向が示されました。また四者協働の推進にあたって必要、また提供したい資源としては、人的な資源についての回答が多く、コーディネート体制の充実が明らかとなりました。

### ①来年度の四者協働プロジェクトへの参加の意向

「来年度の参加の意向」について尋ねたところ、市民公益活動団体、企業・大学ともに「ぜひ参加したい」及び「参加したい」の合計がそれぞれ69%、82%で参加の意向が高い結果となりました。「参加したいと思わない」という回答としては、市民公益活動団体では「高齢化で人材不足」などの理由がありました。企業・大学では「担当者の移動で回答が難しい」などの理由があげられました。

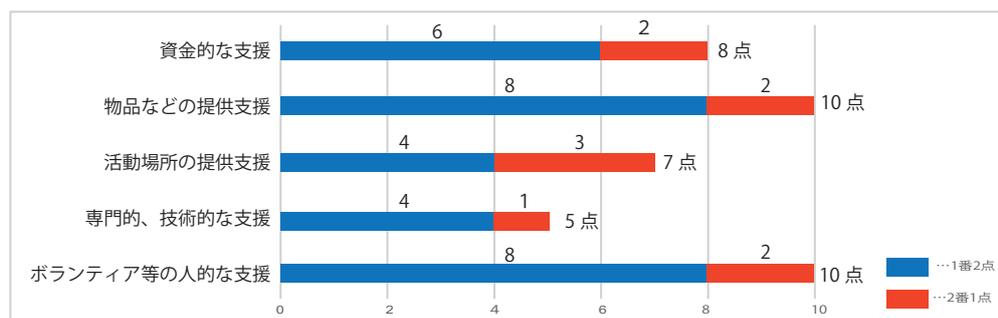


### ②市民公益活動団体が認識する【四者協働により、活動を展開するにあたって取り組みが必要だと思われる項目について(3つまで)】



市民公益活動団体の「四者協働により活動を展開するにあたって取り組みが必要だと思われる項目」への認識について、回答団体に変動はありますが、2019年度から2021年度の変化を見てみると、全体的に指摘率が下がっている傾向にあります。項目別で見ると、2019年度には「情報交換の機会の提供」が82% (14団体)であったのに対し、2020年度は56% (団体)、2021年度41% (団体)と減っています。一方、「ボランティア等の人的な支援」は2020年度、2021年度とも最も高くなっています。

### ③企業が認識する【今後、四者協働を展開するにあたっての関心度(2つまで)】



回答した企業の「四者協働により活動を展開するにあたって参加したい項目」について、1番目には2点、2番目には1点を付けて合計したところ、「物品などの提供支援」と「ボランティア等の人的な支援」が10点となりました。

# ご協賛企業・団体

株式会社 叶匠寿庵



## 叶匠寿庵

地元の文化資源、環境資源を守り、地元の皆さんと100年先も住み続けられるまちづくりを目指した里山づくりに取り組んでおります。

生活協同組合  
コープ自然派京都



## コープ自然派

消費者が主体的に運営に関わり、生産者と顔の見える関係を築くことにより、農薬や添加物などを避け、生産者の健康、土壌など環境を守り、持続可能な生産、消費を実現しています。

小林事務機株式会社



## 小林事務機株式会社

私たちが働き生活している地域社会、更に全世界の共同社会に対して私たちは「ありがとう」（感謝の心）を広め豊かな社会創りに貢献します。

一般社団法人  
滋賀グリーン活動ネットワーク



## 滋賀グリーン活動ネットワーク Shiga Green-activity Network - since 1999 -

産官学民の多種多様な会員が参加するネットワーク組織で「滋賀から『グリーン経済』をつくる」を合言葉に、グリーン購入をはじめとする環境負荷低減活動の推進に取り組んでいます。

株式会社滋賀銀行



## SHIGA BANK

当行は、脱炭素に向けた「カーボンニュートラルローン未来よし」をはじめとするESGファイナンスに積極的に取り組んでいます。これからも地域の皆さまと協働し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

滋賀県信用保証協会



## 滋賀県信用保証協会

当協会は県内中小企業の良きパートナーとして、信用保証制度の機能を生かして企業の課題解決や持続可能性向上、脱炭素に寄与する取組を行っています。今後もSDGsの普及や企業価値向上に貢献してまいります。

株式会社昭建



## DYNAMIC SHOKEN 株式会社 昭建

昭建は総合建設業を基軸に事業展開し今年で創業90年を迎えます。「豊かな社会環境の創造に貢献する」の精神のもと、豊かな水や緑を有する郷土を発信源として持続可能な社会の実現に取組み、百年企業を目指します。

正和設計株式会社



## 正和設計 株式会社

当社は、国民の安心・安全で快適な生活を支える社会資本整備に貢献し、近年頻発する自然災害等から国民を守る防災・減災、国土強靱化計画及び、社会資本の維持管理・更新等の事業に取り組んでいます。

SOMPOひまわり  
生命保険株式会社



## SOMPOひまわり生命

弊社ではCSRの一環として、生命保険の役割である「万が一」が起きた時の保障だけでなく、「万が一」が起きにくく、お客さまに健康で豊かな生活を送って頂けるよう健康促進の観点からも様々な活動を行っています。

滋賀短期大学  
ビジネスコミュニケーション学科



## SHIGATAN Shiga Junior College

滋賀短期大学では、地域の皆さまのご協力をいただき、地域活動に参加する授業を開講しています。ボランティア活動をなどを通じてSDGsや社会貢献に対する高い意識をもった人材を育成したいと考えております。

大樹生命保険株式会社



BEST PARTNER  
大樹生命

当社は生命保険という長期に亘る保障を提供しています。未来永劫、途切れる事なく十分なサービスをお客様に提供し続ける事が当社にとり最も重要なCSRです。これからも当社に関わるステークホルダーに対し責任を果たしていきます。

琵琶湖汽船株式会社



びわ湖との共生を環境方針に定める当社では、びわ湖環境学習体験クルーズや、鮎ずし作り体験クルーズなどのカルチャークルーズを通じて、びわ湖の環境保全活動および地域の活性化に取り組んでいます。

株式会社まちづくり大津



まちづくり大津

都市再生推進法人として様々な支援制度を活用しながら大津市、地域住民、民間事業者との三者協働により中心市街地のにぎわいや魅力向上を図り、「住み続けられるまちづくり」をめざしています。

まちのきょういく委員会



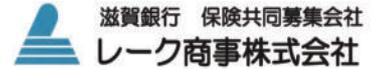
この多様な世界で、人と同じじゃつまらない。まちのきょういく委員会は多様で多彩な世界への入口。世界は思わぬ方向に広がっていて、色んな価値観の人がいて、素晴らしい。

株式会社  
よつ葉ホームデリバリー京滋



私たちよつ葉は、食は自然の恵み・人も自然の一部という価値観に重きを置き、自然との関わりを大切し、安心して暮らせる社会を求め、その実現にむけて行動します。

レーク商事株式会社



当社は、滋賀銀行のパートナー企業として環境にやさしい企業活動を展開している保険代理店です。「輝く未来へ、レーク商事にできること」を合言葉に地域社会の課題解決に貢献して参ります。

謝辞

2021年度も新型コロナウイルスの感染は収束せず、多くの子ども・若者が置かれた社会的状況が改善される道のは険しいものとなりました。これに鑑み、弊所では2020年度に引き続き、SDGsの「目標1. 貧困をなくそう」をテーマに、「子ども・若者支援」を継続することとしました。

本事業では、市民、企業、行政、大学などの多くの方々から、暖かいご支援を賜りました。本事業は、決して規模は大きくはありませんが、顔の見える関係の中で、心のこもったお声がけやご協力をいただきながら運営できたことは弊所にとって望外の喜びです。改めて感謝を申し上げます。2022年度も「大津・SDGs 協働支援チャリティプロジェクト 2022」と題し、四者協働による地域貢献を進めて参ります。引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

プロジェクト主催・報告書発行  
大津市市民活動センター  
〒520-0047  
大津市浜大津4-1-1 明日都浜大津1階  
TEL : 077-527-8661 FAX:077-527-8662  
mail:moveinfo@movementotsu.com  
HP:http://movementotsu.com